N1 Grid Service Provisioning System 5.0 ユーザーガイド (Linux Plug-In)

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819–1546–10
2004 年 12 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software–Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。 HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co.,Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DtComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: *N1 Grid Service Provisioning System 5.0 User's Guide for the Linux Plug-In*

Part No: 819-0735-10

Revision A





050203@10536

目次

はじめに　**5**

1　Linux Plug-In の概要　**9**
Linux Plug-In の目的　9
Linux Plug-In に含まれる項目　9
Linux Plug-In の使用要件　10

2　Linux Plug-In のインストールと構成　**11**
Linux Plug-In の取得　11
Linux Plug-In の N1 Grid Service Provisioning System への追加　11
環境に合わせたソリューションのカスタマイズ　12

3　Linux Plug-In の使用　**13**
Linux RPM ファイルの取得と配備　13
▼ Linux RPM ファイルを取得する　13
▼ Linux RPM ファイルを配備する　14
コンポーネントタイプ　14

索引　**15**

はじめに

このマニュアルでは、N1 Grid Service Provisioning System のインストールと構成について説明します。また、N1 Grid Service Provisioning System を使用して Linux RPM ファイルをプロビジョニングする方法についても説明します。

対象読者

このマニュアルは、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアを使用して Linux ファイルを配備したいと考えている N1 Grid Service Provisioning System 5.0 ソフトウェアのシステム管理者およびオペレータを対象にしています。対象読者は、次の知識があることを前提とします。

- N1 Grid Service Provisioning System 5.0 製品
- 標準の UNIX® および Microsoft Windows コマンドとユーティリティ
- Linux および RPM に関連する一般的な概念

お読みになる前に

N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアの使用経験がない場合は、次のマニュアルの一読をお勧めします。

- 『*N1 Grid Service Provisioning System 5.0* システム管理者ガイド』
- 『*N1 Grid Service Provisioning System 5.0* オペレーションとプロビジョニングガイド』
- 『*N1 Grid Service Provisioning System 5.0* リリースノート』

このマニュアルの構成

第 1 章 Linux Plug-In の概要について説明します。

第 2 章 Linux Plug-In のインストールと構成方法について説明します。

第 3 章 Linux RPM ファイルを取得して配備する方法と、Linux Plug-In 特有のコンポーネントタイプを特定する方法について説明します。

Sun のオンラインマニュアル

`docs.sun.com` では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は、http://docs.sun.com です。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 **P–1** 表記上の規則

字体または記号	意味	例
`AaBbCc123`	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	`.login` ファイルを編集します。 `ls -a` を使用してすべてのファイルを表示します。 `system%`
`AaBbCc123`	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	`system%` **`su`** `password:`
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、`rm` *filename* と入力します。

表 **P–1** 表記上の規則　　*(続き)*

字体または記号	意味	例
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	`sun% grep '^#define \` `XV_VERSION_STRING'`

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

  `machine_name% command y|n [filename]`

- C シェルのスーパーユーザー

  `machine_name# command y|n [filename]`

- Bourne シェルおよび Korn シェル

  `$ command y|n [filename]`

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

  `# command y|n [filename]`

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

一般規則

- このマニュアルでは、「x86」という用語は、Intel 32 ビット系列のマイクロプロセッサチップ、および AMD が提供する互換マイクロプロセッサチップを意味します。

第 1 章

Linux Plug-In の概要

この章では、N1 Grid Service Provisioning System を使用したLinux RPM ファイルおよびアプリケーションのプロビジョニングについて説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 9 ページの「Linux Plug-In の目的」
- 9 ページの「Linux Plug-In に含まれる項目」
- 10 ページの「Linux Plug-In の使用要件」

Linux Plug-In の目的

Linux Plug-In は、RPM (Red Hat Package Manager) ファイルコンポーネントタイプを N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアに追加します。RPM ファイルは、アプリケーションが必要とするすべての部分を含んでいます。RPM ファイルコンポーネントタイプを作成することで、あとでこれらのコンポーネントを別の Linux システムに配備することができます。つまり、RPM ファイルに含まれるアプリケーションをこれらのシステムに配備できます。

Linux Plug-In に含まれる項目

Linux Plug-In は、`RPM file` コンポーネントタイプを含みます。このコンポーネントタイプは、Linux RPM ファイルを識別します。

Linux Plug-In の使用要件

Linux RPM ファイルを配備する予定のホストは、Red Hat Enterprise Linux 2.1 または 3.0 オペレーティングシステムを実行している必要があります。

第 2 章

Linux Plug-In のインストールと構成

この章では、次の項目について説明します。

- 11 ページの「Linux Plug-In の取得」
- 11 ページの「Linux Plug-In の N1 Grid Service Provisioning System への追加」
- 12 ページの「環境に合わせたソリューションのカスタマイズ」

Linux Plug-In の取得

Linux Plug-In は、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアへのプラグインとしてパッケージ化されます。プラグインは、Java™ Archive (JAR) ファイルにパッケージ化されます。Linux Plug-In ファイルは、N1 Grid Service Provisioning System 5.0 Supplement CD からインストールするか、Sun ダウンロードセンターから入手できます。

Linux Plug-In の N1 Grid Service Provisioning System への追加

指定のプラグインを N1 Grid Service Provisioning System 製品に認識させるには、プラグインをインポートする必要があります。プラグインは、『*N1 Grid Service Provisioning System 5.0* システム管理者ガイド』の第 5 章「プラグインの管理」で説明する手順に従ってインポートしてください。

1. メインウィンドウの「Administrative」セクションで、「Plug-ins」をクリックします。

2. 「Plug-ins」ページの「Action」カラムで、「Import」をクリックします。
3. `com.sun.linux_1.1.jar` ファイルをダウンロードした場所へ移動します。
4. 「Continue to Import」ボタンをクリックします。

インポートが正常に終了したら、プラグインの詳細ページが現れ、プラグインによって提供されるオブジェクトが表示されます。

プラグインアーカイブファイルは、コマンド行からインポートすることもできます。次のコマンドを使用します。

```
% cr-cli -cmd plg.p.add -path com.sun.linux_1.1.jar -u username -p password
```

環境に合わせたソリューションのカスタマイズ

`/com/sun/linux` フォルダに対しては、アクセス許可は何も与えないでください。

第 3 章

Linux Plug-In の使用

この章では、Linux Plug-In の使用方法について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 13 ページの「Linux RPM ファイルの取得と配備」
- 14 ページの「コンポーネントタイプ」

Linux RPM ファイルの取得と配備

エンタープライズにわたって Linux アプリケーションを配備する場合、基本的に次のプロセスを含みます。

- 既存の場所にある RPM ファイルをコンポーネントに含める
- そのファイルを別の Linux システムに配備する

▼ Linux RPM ファイルを取得する

システム間にわたってファイルを配備する前に、このファイルを N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアに認識させ、それをコンポーネントに含める必要があります。

手順

1. **N1 Grid Service Provisioning System** ブラウザインタフェースのメインページで、「**Create New Component**」をクリックします。
   「Components」ページが現れます。
2. 「**Action**」カラムの「**Create link**」をクリックします。
3. コンポーネントの名前を入力します。
4. コンポーネントタイプとして「**`com.sun.linux#RPM file`**」を選択します。

プラットフォームタイムが `system#RedHat Linux - any version` に変更されます。

5. **(**省略可能**)** そのコンポーネントのラベルと説明を入力します。
6. **RPM** ファイルを取得するホストとパス名を選択します。
7. 「**Check in**」をクリックします。

▼ Linux RPM ファイルを配備する

手順

1. 以下の説明に従って、コンポーネントを取得します。
2. **N1 Grid Service Provisioning System** アプリケーションの「**Components**」セクションへ進みます。
3. 配備するコンポーネントを選択します。
4. インストールプロシージャーの横にある「**Action**」カラムの「**Run**」をクリックします。
   インストールプロシージャーを実行するための「plan details」ページが現れます。
5. ターゲットホストを選択します。
   ターゲットホストは、配備するコンポーネントと一致するバージョンの Linux オペレーティングシステムを実行している必要があります。
6. 「**Run Plan**」をクリックします。

コンポーネントタイプ

`RPM file` コンポーネントタイプは、Linux RPM ファイルコンポーネントを識別します。このファイルタイプを使用するコンポーネントを作成した場合、コンポーネントはデフォルトインストールプロセスとデフォルトアンインストールプロセスを持ちます。

索引

J
JAR ファイル，11
Java Archive，「JAR ファイル」を参照

L
Linux Plug-in
　インポートする，11-12
　構成，12

R
RPM，9
`RPM file` コンポーネントタイプ，14
RPM ファイルを取得する，13-14
RPM ファイルを配備する，14

こ
コンポーネントタイプ, RPM ファイル，14

ふ
プラグインファイル
　インポートする，11-12
　の場所，11
プラグインをインポートする，11-12
プラグインを構成する，12